

大学入学者選抜における総合的な 英語力評価を推進するための ワーキンググループ（第1回）資料

—
∞
—

ケンブリッジ大学英語検定機構
試験開発部門 日本統括 青山 智恵
2021年12月7日(火)

①実施している英語資格・検定試験の概要



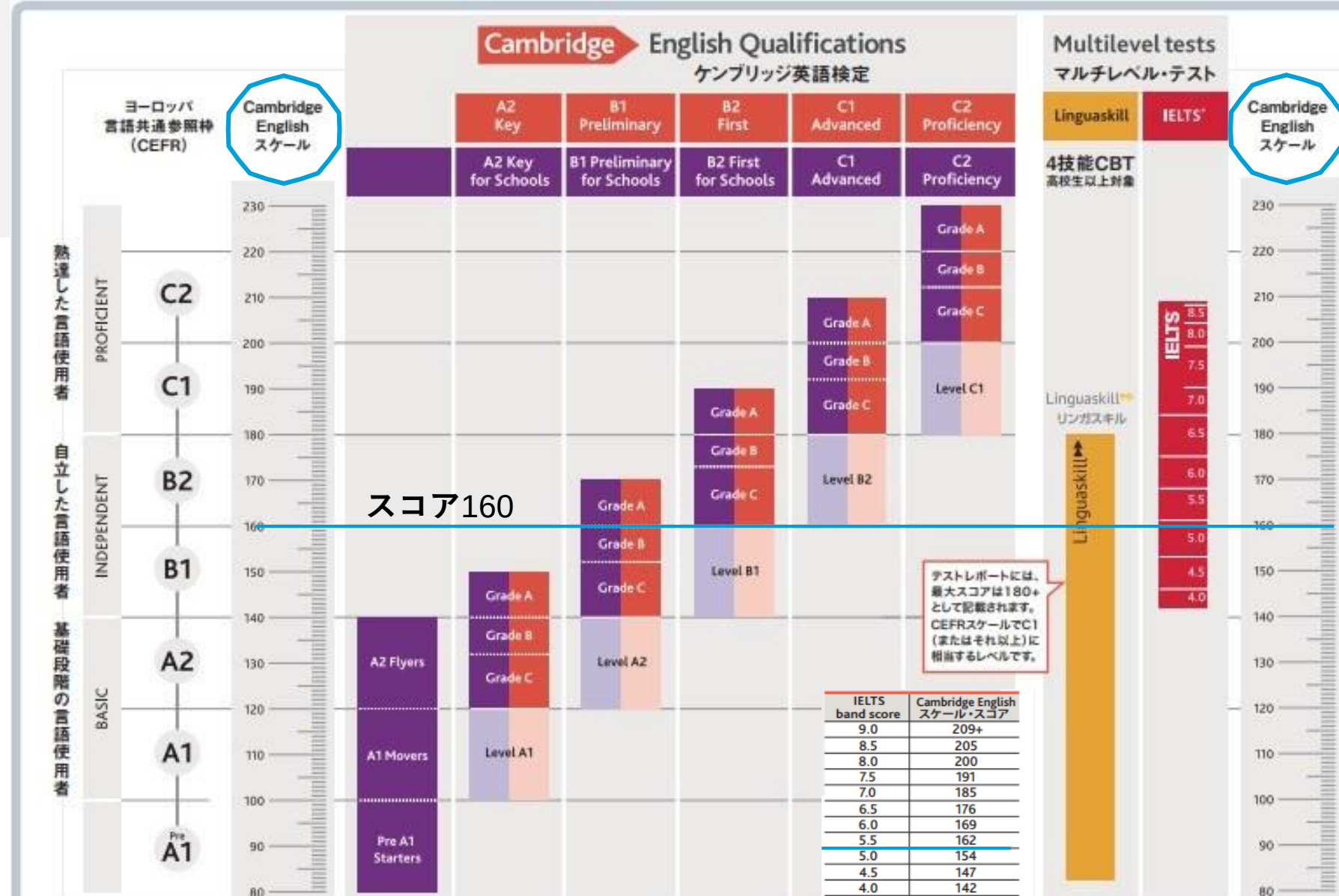
ケンブリッジの試験

550万人
ケンブリッジ
作問の試験を
受ける年間受
験者人数

50,000校を超
える学校がケ
ンブリッジ英
語検定を活用

25,000機関以
上が世界中で
ケンブリッジ
の試験を
認定、活用

130ヶ国で
ケンブリッジ
の資格、検定
試験を実施



ケンブリッジ英語検定

Cambridge English Qualifications



テストの種類

ケンブリッジ英語検定は、英語運用能力の低い順から「A2 Key：キー」、「B1 Preliminary：プレリミナリー」、「B2 First：ファースト」、「C1 Advanced：アドバンスド」、「C2 Proficiency：プロフィシエンシー」の5つのレベルを網羅するレベル別試験です。

「A2 Key」はもともと日本の高校生を対象に作成された試験であるなど、日本の学習指導要領とも高い親和性が見られますが、2009年以降、「A2 Key」、「B1 Preliminary」、「B2 First」に中高生対象の「for Schools（フォー・スクールズ）」*シリーズが加わり計8種類となり、さらに効果的な学校教育との連携も可能になっています。資格は生涯有効です。

テストの種類	CFER	テストの概要・必要とされる英語力のレベル
A2 Key A2 Key for Schools (中高生対象)	A2	日常的に用いる英語をどれだけ学習したかを測ることが意図された出題、コミュニケーション英語Iおよび英語表現Iの目標に合致 中学・高校レベル
B1 Preliminary B1 Preliminary for Schools (中高生対象)	B1	日常的に用いる英語をどれだけ学習したかを測ることが意図された出題、高校検定教科書の目標に合致 高校レベル、共通テストレベル
B2 First B2 First for Schools (中高生対象)	B2	海外大学の進学準備コースの受講や、英語を話す環境で働き始めるのに必要な英語力を測定 国内の難関大学入試レベル
C1 Advanced	C1	海外の大学・大学院への進学や多国籍企業への就業に必要なレベルを測定 (英語圏の大学・大学院入学出願時の英語力証明としても有効)
C2 Proficiency	C2	大学院留学や、ビジネスで経営陣クラスに必要とされる英語運用能力を証明する、ケンブリッジ英語検定の最上級レベルのテスト あらゆる英語に対処できるマスターレベル

- JP181 (倶知安町)
- JP004 (長野、松本、名古屋)
- JP026 (札幌、仙台、千駄ヶ谷、麹町、新宿、池袋、立川、町田、横浜、大宮、柏、津田沼、水戸、名駅、千種、岐阜、浜松、豊橋、刈谷、岡崎、豊田、四日市、津、大阪、上本町、天王寺、京都、神戸三宮、広島、岡山、福岡、北九州)
- JP040 (東京 千駄ヶ谷)
- JP113 (仙台、高崎、水道橋)
- JP065 (神戸)
- JP176 (大阪、神戸市外大、岡山)

**2021年 公開試験
44会場で開催予定**

ケンブリッジ英語検定4技能CBT リンガスキル

CAT、AIが自動採点するオンラインテスト

迅速かつ正確に判定される英語オンラインテスト。リーディング&リスニング（L&R）はコンピューター適応型（CAT）、ライティングやスピーキングはケンブリッジ英語検定をベースに育成したAIが判定。技能別（モジュール別）でも、4技能一括でも受験可能。自宅でも試験を受けることができ、新型コロナウイルスの影響により延期や中止を余儀なくされている受験環境に左右されることがありません。テストは、言語能力を評価する国際基準であるヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に準拠しています。

試験の構成



リーディング&リスニング
（2技能を合わせて試験）
60-85分 程度



ライティング
45分



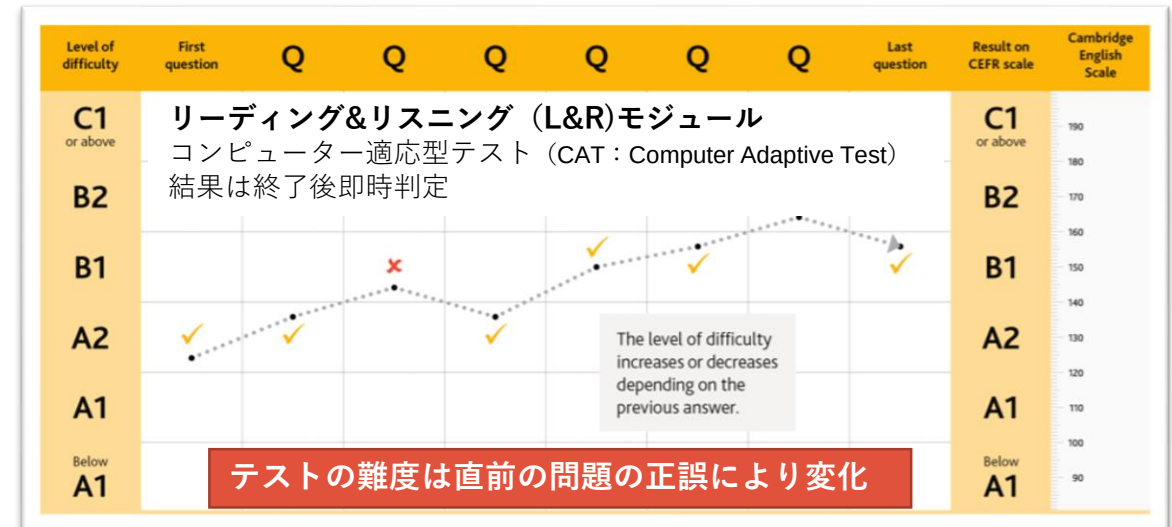
スピーキング
15分 程度



結果がすぐに分かる

成績報告書（個人別レポートとグループ・レポート）が48時間*以内にコンピューターで作成されます。リーディング&リスニングテストの結果は瞬時に分かります。

*結果は48時間以内（ただし英国2営業日以内）に試験センターに報告。
AIおよび採点官によって評価されるハイブリッド採点。



遠隔試験監督システムの導入

いつでも、どこでも受験可能に

リンガスキル：公開会場や自校開催に加え、
遠隔試験監督システム導入により自宅受験可能

Cambridge Assessment English Linguaskill from Cambridge

Accurate English testing for your university

Now with online invigilation software for home use

Learn more >

#Linguaskillfromhome

②現在取り組んでいること





民間英語資格・検定試験の活用の在り方

大学入試のあり方に関する検討会議（第11回）2020年7月資料より再掲

オンライン受検システムの整備

- オンラインテストのLinguaskill（リングスキル）、遠隔試験監督システムの活用

Linguaskill▶▶

高校会場の拡充

- A2 KeyおよびB1 Preliminary for Schoolsは希望する日に試験実施できる「フレックス試験日」へ
- 自校開催は増加傾向。教員に負担をかけない試験運営

Cambridge

English Qualifications

障害のある受験者への合理的配慮の推進

- 「受検上の配慮」に関する情報



English Qualifications

<https://www.cambridgeenglish.org/jp/help/special-requirements/>

Linguaskill▶▶

<https://www.cambridgeenglish.org/Images/553926-linguaskill-special-arrangements-booklet.pdf>

成績提供の利便性の向上

- オンライン成績確認サービス（RVS）受験者がオンラインでケンブリッジ英語検定の結果を大学へ提出できる無料のサービス
- Cambridge English Qualifications : 約1か月後に受験者がオンラインで結果閲覧可。
- Linguaskill▶▶ : 最速48時間以内に4技能試験結果が試験センターに対し提供可

関連サイト <https://www.cambridgeenglish.org/jp/cmp/verifiers/>

利益相反等に関する問題への対応のあり方、第三者評価のあり方

大学入試のあり方に関する検討会議（第11回）2020年7月資料（再掲）

民間英語資格・検定試験の活用の在り方

利益相反に関する懸念

資格試験監査機関 **Ofqual** による規制

- 15- Office of Qualifications and Examinations Regulation
- 問題漏えい含め、不正に関する問題は、イングランドの公式な政府の法定規制当局**Ofqual**（Office of Qualifications and Examinations Regulation）による厳しい規制あり。**Ofqual**は特定の省庁に属さず、議会（Parliament）に直接報告する政府機関
 - Ofqual**は試験団体に対し、試験対策教材、対策講座等が、受検者にとって「unfair advantage（不公平な優位性）」を生じないように、それを回避するための手続きを有しているかどうかをチェックする。違反があれば、関係する機関に対して深刻な影響を及ぼす可能性あり
 - 弊機関は、英国に限らず世界中のすべての試験実施において**Ofqual**の規制を完全に遵守しており、試験問題漏えいのリスクを管理するための広範囲な手順を有している。

【ご参考】“Rules and guidance for all awarding organisations and all regulated qualifications”

すべての資格授与機関およびすべての規制対象資格に関する規則およびガイダンス
<https://www.gov.uk/guidance/ofqual-handbook> 構成：ハンドブックの使い方、セクションA～I
例）セクションA: ガバナンス：利益相反、リスク、インシデントや不正行為の管理等、資格授与機関のガバナンスに関する規則

第三者評価による評価結果の概要

- 1) 品質管理システムの国際規格である**ISO9001**の認証の取得を達成
- 2) **Ofqual**（イングランド政府の教育・資格の質評価に関する監督機関）による監査結果に問題なし（あれば試験実施ができない）
- 3) **ALTE**の監査でケンブリッジ英語検定全てについて、**ALTE**の基準をクリアしている品質を保証する「Q マーク」が付与されている。最近の監査は2018年に行われ全てクリア、Qマーク付与。次回は2023年。



調査研究の実施 Linguaskill▶▶

大学入試のあり方に関する検討会議（第11回）2020年7月資料（再掲）

Cambridge Assessment English

民間英語資格・検定試験の活用の在り方

16 経済的・地理的事柄への配慮
～テクノロジーが可能にする受験～

結果がすぐに分かる
成績報告書（個人別レポートとグループレポート）が48時間*以内にコンピューターで作成されます。リーディング&リスニングテストの結果は瞬時に分かります。
*現在、英国2営業日以内。スピーキングがハイブリッド採点からAI採点へと移行すれば48時間以内

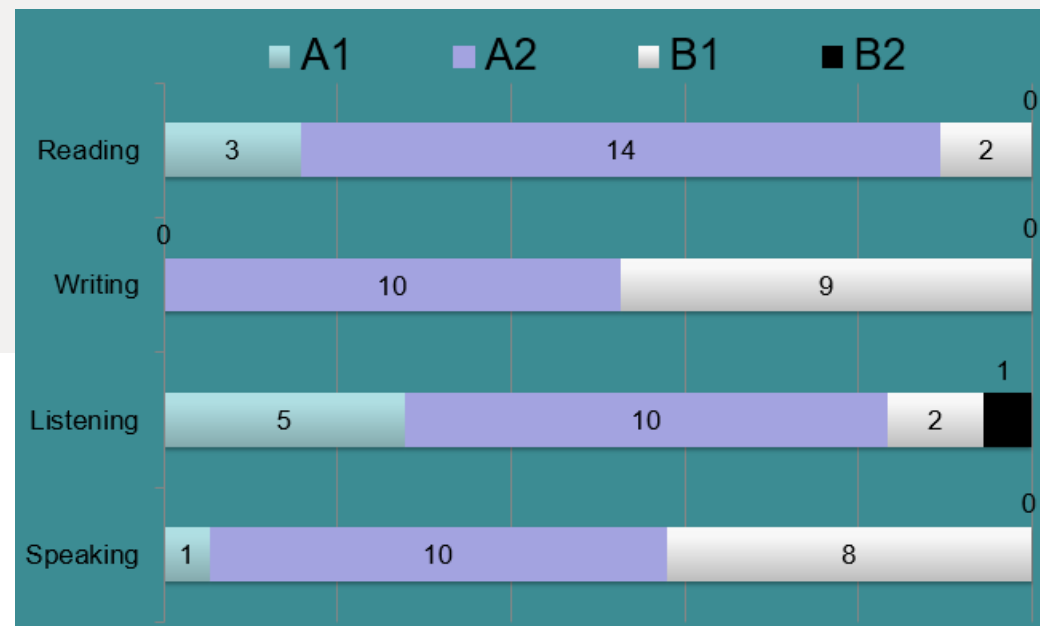
Accurate English testing for your university
Now with online invigilation software for home use
Learn more >

#Linguaskillfromhome

リンガスキル：公開会場や自校開催に加え、遠隔試験監督システム導入により自宅受験可能

現在 → 将来
会場型から個別型へ

グリニフールド大学 英国
モナッシュ大学 英国
クイーンズランド大学 豪州
ノッティンガム大学 英国
中国英語教育センター (UNNC)
遠隔試験監督システム付の試験を試用中



リスニングが難しかった。
早くて音声がつながっているように感じた。

スピーキングが難しい。
もっと勉強が必要。

スピーキングで頭の中では分かっているつもりでもCBTでとっさに話ができなかった。
いい経験だった。

この試験のスピーキングは他のテストと違って自分の考えを話すことも必要なので思考力が測られていると思った。

国際調査 PISA外国語調査(FLA)2025

調査研究の実施 OECDとのパートナーシップ

PISA外国語調査(FLA)2025の提供するもの What PISA FLA for 2025 will deliver?

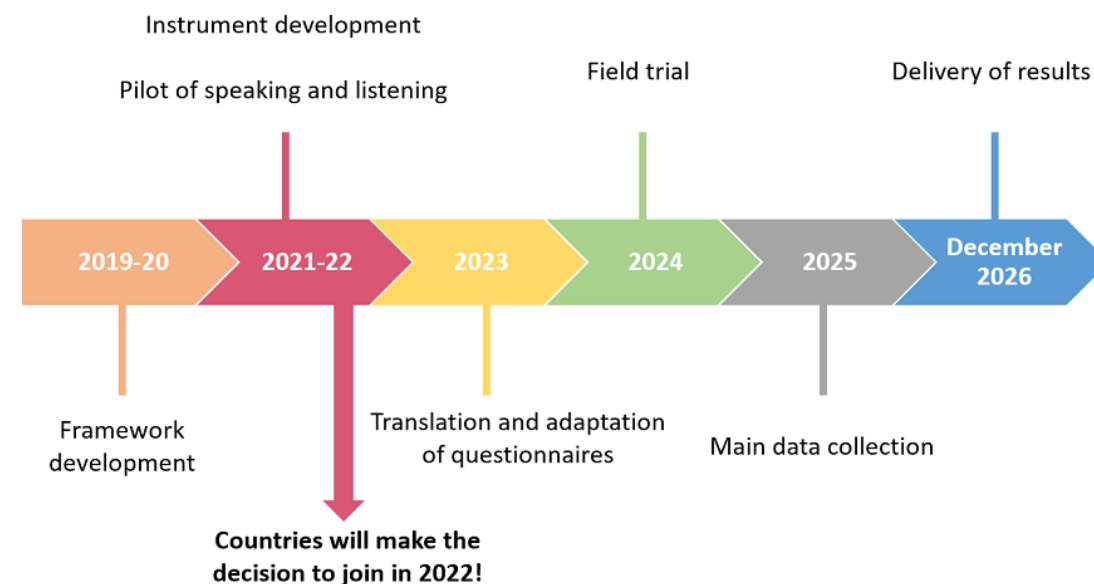
国際比較 International comparison	国の診断 National diagnostics	政策と実践のレッスン Policy and practice lessons
- CEFRに基づく習熟度レベル CEFR Proficiency levels - パフォーマンス結果 Performance results	- 長所と短所 Strengths and weaknesses - 達成度の隔たり Achievement gaps - 傾向の分析 Analysis of trends	世界のベストプラクティスを特定 Identification of best practices world-wide.

「語学学習の世界的潮流 ～CEFRを通じた言語能力の共通化～」
Global Trends in language learning – The standardization of language skills through CEFR

New Education Expo 2021 (2021年6月) ケンブリッジ大学英語検定機構発表資料より引用



Timeline



関連サイトより引用：<https://www.oecd.org/pisa/foreign-language/>

Thank you

